

FRONTEO、言語処理学会 第25回年次大会に出展
プラチナスポンサーとして協賛し、スポンサー展示にて
人工知能エンジン「KIBIT」による言語処理のビジネス応用を紹介

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏）は、2019年3月12日より開催される言語処理学会 第25回年次大会にプラチナスポンサーとして協賛し、ブース出展を行います。

言語処理学会の年次大会は、自然言語に関する理論から応用まで幅広い研究発表を行う機会として毎年開催されています。FRONTEOは、2014年より学会の会員として活動を続けており、今回の年次大会では、協賛とともにプレゼンテーションスペースでのブース展示を行います。ブースでは、144社の企業に導入されている独自開発の人工知能エンジン「KIBIT（キビット）」による言語処理のビジネス応用についてご説明し、学会に参加される学生や研究者の方々に、AIソリューションの実践の紹介と交流を行って参ります。

言語処理学会 第25回年次大会（NLP2019）実施概要

主催： 一般社団法人 言語処理学会
期間： 2019年3月12日（火）～3月15日（金） ※本会議は3月13日より
会場： 名古屋大学 東山キャンパス
URL： <http://www.anlp.jp/nlp2019/index.html>
スポンサー展示： IB 電子情報館 1F プレゼンテーションスペース

■KIBITについて

「KIBIT」は人工知能関連技術のLandscapingと行動情報科学を組み合わせ、FRONTEOが独自開発した日本発の人工知能エンジンです。人間の心の「機微」（KIBI）と情報量の単位である「ビット」（BIT）を組み合わせ、「人間の機微を学習できる人工知能」を意味しています。テキストから文章の意味を読み取り、人の暗黙知や感覚を学ぶことで、人に代わって、判断や情報の選び方を再現することができます。

■FRONTEOについて URL: <http://www.fronteo.com/>

株式会社FRONTEOは、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行うeディスカバリ（電子証拠開示）や、デジタルフォレンジック調査を支援する企業として2003年8月に設立。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View（リット・アイ・ビュー）」、日・中・韓・英の複数言語に対応した「Predictive Coding（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。このリーガル事業で培われ、発展した「KIBIT」を始めとする独自の人工知能関連技術は、専門家の経験や勘などの「暗



黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現します。ヘルスケアやビジネスインテリジェンスなどの領域に展開し、FinTechやRegTechに加え、「働き方改革」でも実績をあげています。2007年6月26日東証マザーズ、2013年5月16日NASDAQ上場。資本金2,507,346千円（2018年3月31日現在）。2016年7月1日付けで株式会社UBICより現在の社名に変更しております。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

株式会社 FRONTEO 広報担当 池内、高橋

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345 Email: pr_contact@fronteo.com